

# 関西学院大学 研究成果報告

2026 年 5月 19 日

関西学院大学 学長殿

所属： 理学部  
職名： 准教授  
氏名： 前川 裕

以下のとおり、報告いたします。

|        |                                                                                                                                                                                                                     |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研究制度   | <input checked="" type="checkbox"/> 特別研究期間 <input type="checkbox"/> 自由研究期間<br><input type="checkbox"/> 大学共同研究 <input type="checkbox"/> 個人特別研究費<br><input type="checkbox"/> 博士研究員<br>※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。 |
| 研究課題   | ヨハネ福音書におけるペトロ像の探究                                                                                                                                                                                                   |
| 研究実施場所 | 大学研究室および自宅                                                                                                                                                                                                          |
| 研究期間   | 2025年 4月 1日 ～ 2026 年 3月 31日 ( 12ヶ月)                                                                                                                                                                                 |

## ◆ 研究成果概要 (2,500字程度)

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

ヨハネ福音書におけるペトロ描写については2023年度から継続している研究テーマであり、研究書としてまとめることを目指している。2025年度も継続的にテキスト研究・関連文献の読み込みを行い、年度前半の成果として2025年8月には10万字ほどのドラフトにまとめた。これによって研究書の骨格となる事項を整理し、追加・修正すべき点が明確となった。これを踏まえ、年度後半は先行研究の参照を継続した。

研究テーマに関連する論文として、"The Function of Confessions of Faith in the Gospel of John"(Annual of the Japanese Biblical Institute、第50号、6-31頁、2026年3月、査読有)を発表した。ヨハネ福音書における「信仰告白」の機能について包括的に論じたもので、物語批評の手法でイエスへの「称号」(メシア、神の子など)を用いた告白に焦点を絞り、各場面の特徴と福音書全体の物語構造における位置づけを考察した。ペトロの信仰告白がヨハネ福音書の物語において持つ機能、すなわちヨハネ福音書におけるペトロイメージの探求も含んでいる。告白の内容は公生涯(1~11章)と復活以後(20章)で異なる。公生涯では「預言者」「メシア」「神の子」といったユダヤ的称号が用いられるが、著者はこれらを不十分なものとして描く。一方、復活後にマリア・マグダラが「わたしの師よ」、トマスが「わたしの主、わたしの神よ」と告白する際には「わたしの」という所有格が加わり、きわめて個人的な信仰関係が表現される。これが真の信仰告白の完成形とされる。また告白は、聞いた者を新たな告白へと導く連鎖的機能を持ち、共同体的側面と個人的側面の両面を備える。さらに、ペトロの告白が他の弟子と比較して際立った地位を与えられ

ておらず、共観福音書とは対照的にペトロを高く評価しない姿勢がヨハネ福音書に一貫していると論じる。

国際学会発表としては、2025年6月にスウェーデンのウプサラ市で開催された聖書文学学会国際大会(Society of Biblical Literature International Meeting)において、“Philip in the Gospel of John in Comparison with Other Characters”と題して発表した。フィリポというキャラクターをヨハネ福音書の他の人物、特にペトロと比較人物分析・物語批評的アプローチで考察したものである。共観福音書でピリポは弟子リストに名が挙がるのみだが、ヨハネ福音書では12回登場し重要な役割を担う。本発表はその役割を「先駆者」として捉え直す。ピリポはナタナエル(1章)、アンデレ(6章・12章)、弟子たち全体(14章)に先立って行動し、他者がイエスと出会うための道を整える。これは使徒行伝のピリポをペトロ・パウロの先駆者と位置づけた山中泰樹の議論のヨハネ福音書版といえる。また、ピリポとペトロの対比も重要な発見である。ピリポが登場する召命・給食・ギリシア人訪問・告別説教の場面にペトロは一切現れない。逆にペトロが登場する第13章では、彼は繰り返し誤った言動をとり否定的に描かれる。ピリポをペトロ不在の重要場面に一貫して配置することで、福音記者はペトロの使徒的権威を意図的に低下させ、階層的権威より証しと導きを重んじる弟子観を提示している。

国内学会では、第66回西日本新約聖書学会(2025年6月、同志社大学)において「ヨハネ福音書におけるトマス像：ペトロ描写との関連で」を発表した。トマスのキャラクターをペトロ像と比較することで、ヨハネ福音書におけるトマスのイメージを捉え直し、またトマスを通じたペトロのイメージを把握したものである。共観福音書ではトマスは弟子リストに名が挙がるのみだが、ヨハネ福音書では3つの発言場面(11章・14章・20章)が記録され、強い関心が示されている。11章では死を恐れぬ大胆さ・忠実さが、14章では弟子たちを代表する理解不足が、20章では復活への懷疑と最高の信仰告白「私の主、私の神よ」が描かれ、この告白は福音書のクライマックスを成す。考察の核心は「ペトロの位置をトマスが占有している」という点にある。弟子の代表、イエスとの対話、顕現場面での唯一の名指し、最高の信仰告白と、本来ペトロが担うべき役割をトマスが果たしている。両者のイメージ(情熱的・忠実・裏切りないし懷疑)も重なる。これはヨハネ共同体がトマスを重視し、ペトロの権威を相対的に引き下げようとした意図を反映しており、21章のペトロ復権はその反動として必要とされたと結論づけられる。

2026年度以降に発表予定のものとして、2026年7月にオーストラリアのアデレードで開催予定の聖書文学学会国際大会において、“Peter and Female Disciples in the Gospel of John”が採択されている。ヨハネ福音書におけるペトロの位置づけを、女性弟子たち——イエスの母(2章)、サマリアの女(4章)、マルタとマリア(11章)、マグダラのマリア(20章)——との対照的な描写の体系的分析を通じて考察するものである。女性弟子たちは一貫して神学的触媒として機能する。イエスの母は最初の奇跡を成就させ、サマリアの女は伝道者となり、マルタの告白はペトロの告白(6:68-69)をラザロ復活の直前という配置によって超え、マグダラのマリアはペトロが空の墓を確認するにとどまる中で復活顕現を受ける。本分析は、第四福音書が一貫して女性弟子たちをペトロよりも優位に描いていることを示す。ヨハネ福音書における女性の比重の高さはすでに注目されているが、その意義はペトロの扱いと対置することでより一層際立つ。この福音書はペトロの地位を意図的に相対化しており、初期キリスト教におけるペトロ中心主義に対する対抗的物語を示唆している。このパターンは、多様な初期キリスト教共同体の中における第四福音書の意図的な神学的立場を明らかにし、形成期キリスト教における権威と性差をめぐる継続的議論に貢献するものである。

以上の論文発表・学会発表を通じて、ヨハネ福音書におけるペトロ像の多角的な解明を着実に進めた。これらの成果を統合した研究書の刊行へと大きく前進することができた。

以 上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構(NUC)

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。